

平成28年12月 教育委員会会議録（要旨）【12月26日（月）】

<p>〔開会の宣告〕 岡教育長</p>	<p>平成28年12月定例教育委員会会議を開会する。</p>
<p>〔会議の成立〕 岡教育長</p>	<p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、森委員と私とする。</p>
<p>〔公開の審議〕 岡教育長</p>	<p>本日の会議日程について、協議（1）については、「教育予算の見積もりを決定すること」、報告（3）については、「教育施策の意思決定過程中的案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、意見を伺いたい。</p>
<p>岡教育長</p>	<p>採決する。協議（1）及び報告（3）について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。 (全員挙手)</p>
<p>岡教育長</p>	<p>全員賛成により、協議（1）及び報告（3）については、非公開とする。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	
<p>岡教育長 岡教育長</p>	<p>11月14日開催の平成28年11月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。 (異議なしの声) 異議なしと認め、前回会議録を承認する。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>〔1〕事業・行事等報告について ○ 前回会議（H28.11.14）以降の事業・行事報告（主なもの） 11月18日（金） 第42回九州地区道徳教育研究大会「熊本大会」</p>	

平成28年12月 教育委員会会議録（要旨）【12月26日（月）】

19日（土）	熊本市PTA協議会研究大会
20日（日）	平成28年度第9回「くまもと教育・文化フォーラム」
22日（火）	砂取小創立百周年記念式典
28日（月）	全国高等学校長協会人権教育研究協議会
12月 5日（月）	第4回定例市議会開会（～20日）
10日（土）	第18回創造アイデアロボットコンテスト九州地区中学生大会
22日（木）	熊本市一斉街頭指導出発式 市立小・中・高校終業式
○ 今後の予定（主なもの）	
1月10日（火）	市立小・中・高校始業式 熊本市PTA協議会主催一斉あいさつ運動
日程第4 報告	
・報告（1） 平成28年熊本地震に伴うカウンセリングが必要な児童生徒数について	
	《橋爪総合支援課長 報告》
出川委員	カウンセリングが必要な児童生徒について、小中学生の割合や学年別等、内訳を教えて欲しい。
橋爪総合支援課長	602名のうち小学生が466名、中学生が136名である。このうち新たにカウンセリングが必要となった233名の内訳については、小学生が175名、中学生が58名である。学年別の集計は行っていない。
小屋松委員	調査の回数を重ねるにつれて、カウンセリングが必要な子どもの数は減っていると考えてよいか。また、「新規」の欄の人数は、調査を行った回において初めてカウンセリングが必要と判断された子どもの数であり、毎回異なる児童生徒であると理解してよいか。
橋爪総合支援課長	委員の言われる通りである。ただし、全体数は少しずつ減少しているものの、「新規」の人数については減り方が鈍化しており、今後の調査においても一定数の児童生徒が「新規」として出てくるのではないかと考えている。そのようなことから、中長期的なケアが必要であると考えている。また、新たにカウ

<p>西山委員</p>	<p>ンセリングが必要となった子ども達については、出来る限り臨床心理士が初期対応できるように配慮していきたい。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>子ども達が抱える問題について、必ずしも熊本地震に関係するものとそうでないものとを切り分けることは出来ないと思うが、具体的にはどのような悩みが多いか。</p>
<p>西山委員</p>	<p>地震直後は、子ども達が家庭で被災したことから、例えば、被災時にお風呂に入っていた子が「入浴を一人でしたくない」といったり、「家で留守番をしたくない」「2階に上がりたくない」など、被災した場所に行きたくないという「回避麻痺」という症状が多かった。現在はそれよりも、ちょっとした物音にも敏感に反応する、被災地の映像を見ると動悸がする等の「過覚醒」という症状の方が多くなりつつあるとの報告を受けている。細かな分析については、県と合同の心のサポート会議などで分析と対応を考えていく。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>例えば保護者が地震の影響により職を失い、経済的に苦しくなったことが、子どもにとって精神的な負担になっているといったケースもあるかと思う。そのような場合にはカウンセリングを行うだけではなかなかうまくいかないのではないかと思うが、そのようなことはないか。</p>
<p>・報告（2） 学校教育コンシェルジュについて</p>	
<p>泉委員</p>	<p>《橋爪総合支援課長 報告》</p> <p>項目別で見ると「⑧学校不信・不満、教職員との関係の問題」が最も多くなっているが、内容について詳しく教えて欲しい。</p>

平成28年12月 教育委員会会議録（要旨）【12月26日（月）】

<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>1例ではあるが、保護者が「先生にかけられた言葉が原因で学校にいきたくない」と学校に相談し、改めてコンシェルジュに相談されたケースがある。</p> <p>またいじめに対する対応で「いじめられた側」と「いじめた側」が同席のもと謝罪する機会を学校が設けたが、子どもも家族も依然として苦しい思いをしていることを相談されたケースがある。</p> <p>このように保護者から学校へ直接言うのは言いづらいというケースが多いようである。</p>
<p>泉委員</p>	<p>「⑧学校不信・不満、教職員との関係の問題」の中でも、子どもと教員との関係に関する相談が最も多いということか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>その通りである。</p>
<p>泉委員</p>	<p>では、学校不信・不満という部分については、また別の事例があるということか。そうであれば、この項目にまとめられている問題は範囲が大きいと思うため、もっと細かく分類した方が良いのではないか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>学校不信については、学校全体に対する不信感ではなく、保護者の方と特定の教員との関係が非常に良くないことに起因するものが多い。例えば、「ある教員の言葉が非常にきついが、そこまで言わなくてもいいのではないか。子どもがその教員の授業だけ受けたがらない」というようなものである。</p>
<p>西山委員</p>	<p>学校教育コンシェルジュとして対応されているのは、どのような方か。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>小学校・中学校を昨年度退職した校長・養護教諭、PTA役員経験者の4名である。</p>
<p>出川委員</p>	<p>相談を受けたもののうち、解決したものと現在も継続して対応しているものとの内訳は分かるか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>10月末時点の数字であるが、108件寄せられた相談のうち94件は解決している状況である。</p>

<p>小屋松委員</p>	<p>「4 新規相談者内訳」を見ると、「母」に次いで多いのが「学校」となっている。学校からの相談とはどのようなものか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>先ほど挙げた事例のように、学校と保護者の間で「言った」「言わない」というような話になり、直接の話し合いでは対応が困難になってしまっている案件で、中立的立場から意見を言ってもらうためにコンシェルジュへ相談するというものである。</p> <p>保護者が感情的になられている場合もあるため、しっかりと話を聞ける存在ということでコンシェルジュを交えて対応している。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>コンシェルジュが設置される前から、そのような問題はあったと思うが、どのように対応していたのか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>例えば、部活動に関することであれば健康教育課、教職員に関することであれば教職員課、児童生徒に関することであれば総合支援課、転校・転籍に関することであれば学務課というように、案件の内容に応じて、それぞれを担当している課が対応していた。</p> <p>現在はコンシェルジュが各課と連携して対応している。</p>
<p>西山委員</p>	<p>先ほど泉委員も言われたように⑧の項目が一番大きな問題であると考えている。やはりもう少し詳しく分析した方が良いのではないか。</p> <p>例えば、学級崩壊のような現象が起きると、保護者はどうしても学校不信に陥ってしまい、「教育委員会へ訴えようか」という話が出てしまいがちである。そのような事態は起きないことが望ましいが、起きてしまった際にどのように対応するのか。現状ではコンシェルジュに任せざるを得ないのであろうが、それだけで済むのか。様々なケースがあるであろうから、その点も含めて分析が必要であると考えている。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>⑧の学校不信・不満、教職員との関係問題については、問題を解決することだけでなく、学校のどこに課題があるのか、教員の資質も含めたところで、日常的に学校と一緒に考えていかなければならない。37件寄せられている相談から学校の対応のどこに問題があったのかを整理して分析し、学校にも</p>

<p>出川委員</p>	<p>伝えていきたい。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>「⑩発達障害などに関する問題」とあるが、これはどのような内容か。</p> <p>例えば、「子どもが発達障害の診断を受けているが、学校に伝えることが出来ずにいる。」「子どもの障がいを学校側は表面的に受け止めており、家族がどれほど悩んでいるか分かってもらえていない。どのように伝えればよいか分からない。」「子どもの就学について、通常学級・特別支援学級・通級指導教室、どれを選択すべきか悩んでいるが、どこへ相談すればよいか。」といった内容の相談である。</p>
<p>出川委員</p>	<p>そのような内容であるならば、「発達障害」ではなく「障がい」でよいのではないか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>ご指摘のように修正する。</p>
<p>森委員</p>	<p>先ほどの事例で、教員の言葉に萎縮して登校できなくなる子どもの話があったが、通常、教員の指導方法に問題があるのであれば、その教員の指導方法を改善することが最終的な解決になると思う。そこまでの対応をコンシェルジュが行うのか、それともコンシェルジュへの相談内容についての報告を総合支援課が受け、該当の学校や関係各課へつないでいくのか。相談内容を分析し対策を立てて実行・実施していくのはどこなのか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>個別のケースについては、コンシェルジュが分析した内容を学校にしっかり伝えることで解決すると思うが、それだけでなく、相談内容を類別化して学校もしくは教育センターが行う研修等で活用し、教職員の資質向上に努めたいと考えている。</p>
<p>森委員</p>	<p>総合支援課が相談内容を分析したデータを教育センターへ提供し、教育センターが実施する研修の中で活用するという事か。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>その通りである。それ以外に、学校においても教員の資質向上に関する研修を実施するため、そこでも活用してもらうことを考えている。</p>

森委員	<p>コンシェルジュ制度はまだ始まったばかりであるため、今後情報を蓄積していき、最終的にどのような形を取るかを考えていかなければならない。ケース個別の解決はもちろんだが、根本的な問題への対応が必要である。研修等に活用する場合も、関係各課でしっかり連携して取り組んでいただきたい。</p>
泉委員	<p>児童生徒の中にはネグレクトにあっている子が相当数存在すると思う。教員がネグレクトに気づいた際は児童相談所に連絡すると思うが、コンシェルジュも把握しておいた方が良く思う。教育委員会事務局内においてネグレクトに関する情報を把握する仕組みはあるか。</p>
橋爪総合支援課長	<p>虐待に関しては学校はすぐに児童相談所へ連絡し、その後はSSWとつながっていく。コンシェルジュからSSWへ連絡するルートはあるが、SSWからコンシェルジュへ虐待の情報を伝えるルートはない。今後、しっかり連携していきたいと考える。</p>
泉委員	<p>ネグレクトに関する情報について、教育委員会事務局が把握している訳ではない、ということか。</p>
橋爪総合支援課長	<p>児童相談所から情報提供を受けるルートはない。</p>
泉委員	<p>その点については、児童相談所と教育委員会事務局がしっかりと連携しておいた方がよいと考える。</p>
西山委員	<p>非常に⑧の問題が気になる。少しでも⑧に関する相談件数が減るように、これからの経験を踏まえて分析を行い、対策を立てることが大事である。よろしく願います。</p>
泉委員	<p>同時に、これだけの数の不満を吸い上げることが出来た、という意味もあるように思う。今後も相談しやすい雰囲気を作っていく必要がある。</p>
<p>・報告（4） 広報広聴関係について</p>	<p>《緒方教育政策課長 報告》</p>

<p>西山委員</p> <p>緒方教育政策課長</p> <p>[非公開の審議]</p>	<p>資料7-3頁「〇副担任の配置について」に関連して、私は教員には出来るだけ長く子ども達と接する時間を確保して欲しいと考えている。ところが今の教育現場は小学校から大学に至るまで非常に忙しくなってしまう。教員が書類作成に追われる現状がある。それら全てが雑用ではないだろうが、もう少しそのような事務的負担を減らし、子ども達に向き合う時間を長く取れないだろうかということを常々考えているがいかがか。</p> <p>教職員の多忙化解消は非常に重要な課題であると考えている。昨年度策定した熊本市教育振興基本計画においても「子ども一人ひとりに向き合う時間の確保」を重点項目として掲げているところである。多忙化の要因は部活動や保護者対応、事務手続の増加等、様々であるが、事務手続に関しては、学校への調査回答依頼の軽減を図る取組を行った。また4月には事務改善の事例集を学校へ配布しており、今後はそれを活用して欲しいと考えているが、具体的な取組についてはまだこれからである。この他、校務支援システムの導入についても検討しており、このような取組を通しながら教職員の負担軽減に努めていきたいと考えている。</p>
<p>日程第3 協議</p>	
<p>・協議（3） 平成29年度当初予算要求の概要について</p>	
<p></p>	<p>《緒方教育政策課長 説明》</p>
<p>日程第4 報告</p>	
<p>・報告（3） 市立特別支援学校小・中学部（仮称）基本設計（案）について</p>	
<p>[閉 会]</p> <p>岡教育長</p>	<p>《城門特別支援教育室長 報告》</p> <p>本日の日程は全て終了したので、平成28年12月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>